

2023年度 第19期小児在宅ケアコーディネーター研修会

修了生の学び

- 患者さんやご家族の思い・考えを大切にすることはもちろん大事であるが、看護師である自分自身の感情や気付きにも目を向けることも大切であると学びました。
- その子のやりたいという内からわいてくる思いを受け取り、その力を支えて、家族の、こうなって欲しい、こうありたい思いを受け止め、「やり方」ではなく、常に自分の「在り方」を考えること、beingしながらタイミングみてdoingすることの大切さを学んだ。
- 「同じ方向を見て、となりで歩いていく、変化の余地を生み出す伴走者」になりたいと強く思った。
- 医療的ケアのある子どもが、社会で健やかに育っていくためには、家族のサポートは必要不可欠であり、子どもが健やかに生活するために家族への支援が大切であると感じた。
- 私たち医療者は、在宅移行を行う際に、医療的ケアの手技ばかりに着目してしまいがちである。その家族らしさも守りつつ、子どもが在宅移行を行えるように、家族の思いや意向を、大切にしていきたい。
- 一人の子ども、一つの家族として、その子どもと家族が自分たちらしさを守りながら生活できるように支援して行きたいと考える。
- 各病院や施設での取り組みや困りごとなどを共有することができた。
- 専門病院での役割、地域へつなげていくことの大切さ、対象者とその家族が私たちと同様にあたりまえにある日常を、安全に楽しく過ごせるためのニードをサポートすることが重要であると学んだ。
- 「主体」という言葉が頻回に出てきたが、在宅ケアについて実践の中で無意識に考えて行っていた自分に気づきました。
- 自分の役割を改めて確認し、医療ケアチームに一員であり、チーム内での連携が大切であることを学んだ。
- 今まで在宅ケアの家族への技術指導の部分での関わりが多く、技術習得で自分の中で完了していたのではないかと思った。全体を患者家族の全体を見ることができていなかったことに気がついた。
- 他施設での事例検討やグループ討議は自分の経験にないことを知ることができた。
- 患者のためと思いながらも看護師主体の看護だったのではないかといった、自分の看護の振り返りができ有意義な時間でした。
- 子どもであること、家族であることを支える看護について、また看護師としての主体を大事にケアしていくことが大切と学びました。
- 患者家族に寄り添い、共に考え、各職種と支え合って在宅支援が成り立つんだと言うことを改めて感じました。
- 病棟にいと退院後の支援が見えづらく、患者家族の一部分しか見えないことがよくあります。私たちは点ではなく線上の一部分を担っていることを認識し、途切れない支援を続けていけるよう、つないでいきたいです。
- 看護師という立場だけでなく、様々な視点からの講義や講演で今まではどう行動すれば良いのか分からなかったが、具体的な例を知ることによって明確になってきた。
- 子どもや家族が主体であることを支えるには、子ども、親、家族の見方、とらえ方、感じ方、気づきを尊重し、語り合い一緒に取り組むことが大切である。
- 成長、発達するなかで、周囲の関わる人の変化やケアが変わるかもしれないが、根底を大事にすればぶれずに子どもも親も主体的に生活していけるということを学んだ。